JIYD

2020

特定非営利活動法人
青少年育成支援フォーラム（JIYD）

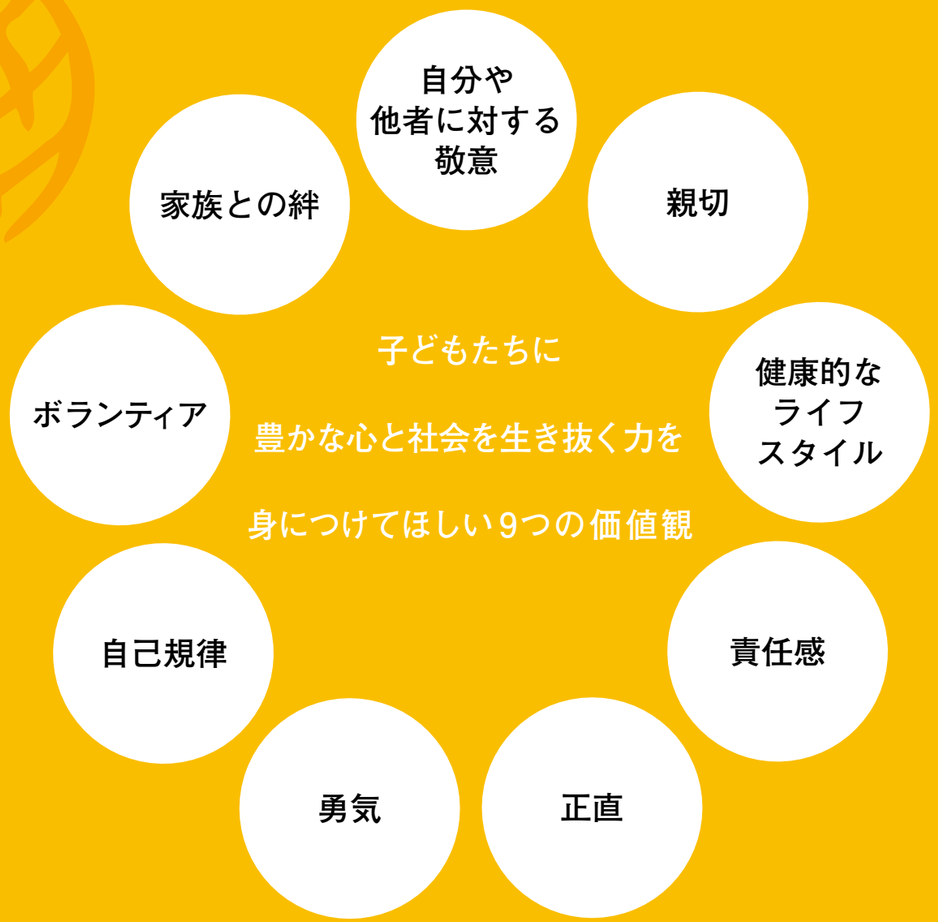
年次報告書

Japan Initiative for Youth Development
Annual Report 2020

特定非営利活動法人
青少年育成支援フォーラム
Japan Initiative for Youth Development

〒108-0074　東京都港区高輪4-10-63-302
TEL：03-3440-3373　FAX：03-3440-4447
E-mail：info@jiyd.org　URL：https//www.jiyd.org

発行者　馬渕 英晃
発行所　特定非営利活動法人　青少年育成支援フォーラム
発行日　2021年6月1日



9つの価値観を育む「ライフスキル教育」を子どもたちに届けよう
私たちは「Lions Quest ライフスキル教育プログラム」の
普及活動に取り組んでいます

FOCUS 2015～（今、注力すること）

プログラムの継続的な実施を促進するために

① 多様な教育現場に対応する運営方法づくり

教育現場のニーズや社会の実情にあわせ、ワークショップやフォローアップのさまざまな開催方法を提案する

② 実践者や協力者のネットワーク構築

プログラムの実践者や支援者が情報共有・意見交換する場を拡大する

③ 普及活動の継続・拡大に有効な情報公開や広報活動

普及展開の例示や実践事例などの広報ツールを定期的に提供する

*1999年にライオンズクエストプログラムを日本に導入して以来、普及活動の基盤整備・全国拡大を経て、2010年以降は「深化」を大きなテーマとしてきました。2014年度までのFOCUS（注力すること）として、授業実施率の向上、評価事業、教材開発の3点を掲げてきました。評価事業では、2010年から3年間をかけ、実践校でのプログラムの効果を測るプログラム評価が終了し、教材開発では、それまでの「思春期版」に加えて2013年7月には「小学生版」、2017年7月には「幼稚園/保育所（園）版」を開発・導入しました。そして2019年7月から、2015年にアメリカで導入された新しいライオンズクエストプログラムの日本語版を開発し電子版教材として導入しました。

理事長あいさつ

理事長
野村　彰男
2021年5月

２０２０年度に青少年育成支援フォーラムが取り組んだ活動の年次報告書を、ライフスキル教育を共に推進し、理解し支えて下さる皆さまにお届けいたします。残念ながら今回もまたコロナ感染が収束せず、私たちの活動も厳しい制約のもとに置かれた中でのご報告となってしまいました。このご挨拶も、コロナ禍の一日も早い収束と、皆さまのご健勝を願いつつの執筆となりました。

地球規模での急速なコロナ感染の広がりは、国と国との交流、人や物、カネ、情報が国境を超えて自由に行き交ってきた世界の姿を一変させました。日本社会の姿、企業や人々の働き方、家族のあり方から子どもたちの教育まで、大きく変化いたしました。この間に経験し、身に付けた知恵を、コロナ後の社会にどう活かし、より良い国に変えることが出来るかは、私たち皆に与えられた宿題ということになりそうです。

青少年育成支援フォーラムの活動の全体像は本文をお読みいただきたいと思いますが、私たちは２０２１年３月に総会を開き、そこで東北福祉大学教育学部の大西孝志教授に基調講演をしていただきました。大西先生は2019年から同大学で教員を目指す学生を対象にライフスキル教育のワークショップを開いておられます。石巻日和ライオンズクラブの新木経嗣さんに誘われ、大西先生自身がセミナーやワークショップに参加し、ライフスキル教育が「学生にとって大変役立つ」と実感されたのが出発点となり、今ではライオンズクラブ国際協会３３２-Ｃ地区の支援を得て、東北福祉大で定期的にワークショップを開催しておられます。

大西先生のご講演の要旨と併せて、３３２-Ｃ地区のライオンズクエスト・薬物乱用防止委員会 新木委員長のご報告をぜひお読みください。普及活動のポイントや難しさ、クラブの課題解決に向けた取り組みなどは、他の地区にも参考となるに違いありません。

また、岐阜金華ライオンズクラブの支援で、昨年10月、岐阜市教育研究所主催の「いじめを生まないクラスづくり」をテーマとするワークショップが開催されました。参加者は岐阜市内の全校に配置されている『いじめ対策監』70名。参加者からは「職員研修での実践や高学年の授業に取り入れるなど、実践可能と感じた」といった声が寄せられました。

私たちは、全国のライオンズクラブや教育関係者の皆さまとともに、コロナ禍の先にもっと明るい子どもたちの未来が開けることを信じて、活動を続けてまいります。皆さま方の一層のご理解とご支援をお願い申し上げます。

〈普及活動・実践事例〉

正解のない問題の答えを発見する力を身につける

未来の先生たち、ライフスキルを学んで豊かな教員生活へ

東北福祉大学では、2019年より教員をめざす学生を対象としたワークショップを開催しています。ワークショップ開催の中心になってくださっている同大学の大西教授が、教員を目指す学生たちが大学生活でライフスキル教育を学ぶ意義や学校・家庭・地域というさまざまな視点から、大人のかかわりについてお話しくださいました。

東北福祉大学
教育学部
教授
大西　孝志

私はライオンズクエスト、ライフスキル教育の専門家ではありません。ただし、この数年、私自身がセミナーやワークショップ、説明員研修会に参加してライフスキル教育を体験しました。そして、令和元年度・2年度は、本学を会場に3度のワークショップを開催し、学生たちにとって、このプログラムが大変役に立つものであることを実感しています。

はじめに ～自己紹介～

私は大学を卒業してから、北海道内のろう学校に17年間勤務しました。聞こえに障がいがある小学1～3年生の児童の指導をしていました。その後、特殊教育センター、教育委員会、文部科学省で仕事をし、7年前から本学で教員養成の仕事に関わっています。聴覚・言語障がい、特別支援教育、教育課程などが専門です。

近年は、特別支援教育ということばが多くの人に知られるようになりました。バリアフリー、インクルーシブ教育システム、ユニバーサルデザイン、合理的配慮など‥耳にしたことがあると思います。障がいのある子ども（人）に対する理解・啓発は近年急速に広がっています。

この背景には、学校教育の変化が影響しています。小学校の教科書には、障がいに関する記述が目に見えて増えています。わずか3年前の教科書と比較しても、挿絵に点字ブロックが加わっていたり、教室内に車椅子に乗った子どもが描かれたりするようになりました。世の中の仕組みを変えていく際に、学校教育が如何に大切であるかということを改めて感じます。

最近、新聞でよく目にするSDGs（持続可能な開発目標）においても、特別支援教育、マイノリティを尊重するという考え方が貫かれています。

私の専門とする障がいとは少々異なりますが、最近はLGBTの問題も大きく取り上げられています。飛行機の機内アナウンスや東京ディズニーリゾートの「Ladies and Gentlemen」という放送が「All passengers」や「Everyone」に変更になっているのも多様性の尊重ということだと思います。

ライフスキルと私

ライフスキル教育を知ったのは、地元、石巻日和ライオンズクラブの新木経嗣氏（ライオンズクラブ国際協会332-C地区ライオンズクエスト・薬物乱用防止委員会委員長）からお誘いを受け、セミナーに参加したことがきっかけです。「子どもたちはさまざまな課題・問題に対面する。それらを乗り越える方法を『わかる・わかった』から『できる』へ」という考え方の下で行われるワークショップに参加し、素晴らしさと面白さを体験しました。

また、それに加えて、小学校等の担任の中には、この手法をうまく学級での指導にアレンジして取り入れている人がいるということもわかりました（この際、本人はライフスキル教育の手法を取り入れた指導を行っているという意識がない場合が多々あります）。

ライフスキルと私

1. 私とライオンズクエストの出会い
2. 「わかる、わかった」を「できる」へ
   ……なるほど！
3. 今の学校・子どもたちの抱えている課題
   - ▶知識はあるけど、智恵は‥‥
   - ▶理論先行、言葉先行（ネットで検索すると分かる）
   - ▶相手意識

ライフスキルと大学生

私が日々関わっている大学生の多くが、ワークショップを体験することにより、これらのノウハウを身に付けると、大変力強いと思いました。

そこで、ライオンズクラブ国際協会332-C地区のご支援を得て、本学でワークショップを定期的に開催することとなりました。

学生の反応は、座学中心ではないこと、主体的・対話的で深い学び（まさにアクティブ・ラーニング）であること、学んだことをすぐに教育実習やボランティアで試してみることができるなど、とても良かったです。学生たちからは、以下のような意見がありました。

「頭ではわかっていたが、実際に言葉や行動に出すことが難しいと改めて感じた」、「メンバーには、一人ひとり役割がある、という言葉が強く印象に残った。役割を与えられることで、自分の係を頑張ろうと思えるし、責任を持ってやり遂げようと意欲が湧いてきた」、「講義ではジグソー学習法ということを聞いていたが、やってみることでよくわかった」、「今回のワークショップを境にグループワークが楽しくなった」

まさに、アクティブ・ラーニングを自らが体験する2日間でした。

学生と参加したワークショップ

教育学部生（将来教員志望）とライフスキル

- ▶アクティブラーニングの体感
- ▶主体的・対話的で深い学びによる授業改善に活かす
- ▶学力向上
- ▶学級づくり・集団を動かす方法
- ▶特別の教科道徳
- ▶キャリア教育
- ▶いじめ問題
- ▶SDGs　など

人が生きていくために当然身に付けること

ライオンズクエストプログラムのワークショップに初めて参加した人の中には、「このような方法を初めて知った」「目から鱗が落ちた」という感想を述べる人がいます。プログラムの構成が素晴らしく、飽きることなく、時間を忘れて2日間を過ごすことができるのでそう感じるのかもしれません。

しかし、ライフスキル教育の根底にあるものは、これまでの教育や躾と大きくかけ離れているものではないと思います。

自己肯定感を高める、感情や態度の好ましい表現方法を知る、健全な意思決定ができる、目標設定と計画的な実施ができる、他者との好ましい関係の形成、よくない誘いへの対応方法‥など、ライオンズクエストプログラムで学ぶスキルというのは、私たち誰もが、親や先生から教わってきた当たり前のことです。

言うなれば、人が生きていくために当然身に付けなければならない基礎・基本が、ライフスキルに繋がっているのではないでしょうか。

教科学習の基礎・基本、常識の習得

私自身は、子どもたちが、教科学習の基礎・基本を確実に身に付けること、常識を習得することも、ライフスキルに繋がっていると思っています。

例えば、私は、毎年1月になると学生に「春の七草を知っているか？」という質問をします。そこで、「セリ、ナズナ、ゴギョウ、ハコベラ、ホトケノザ、スズナ、スズシロ」とすらすら言える学生に、なぜそれを覚えているのかと聞いています。そうするとだいたい同じような回答が得られます。

- ▶毎年、我が家では七草粥を食べているから
- ▶その時期になると母親が繰り返し名称を尋ねてくるから
- ▶家族、兄弟姉妹は、皆、七草の名称を言える。当たり前のことだと思っていた。

七草の名称は、テスト対策のために暗記するものではありません。また、学習指導要領に必ず教えるべきことと明記されているものでもありません。

では、これらの学生が「春の七草」を覚えているのは、なぜでしょうか。それは、その学生の成長過程で関わった、親や先生が、指導すべき時期に指導しなければいけないことを経験とことばを結び付けながら教えたからに外なりません。

1月7日になると、七草を買ってきてその名称を教え、正月明けにそれを食べる理由を語り聞かされる環境があったのです。不思議なことに、春の七草を言えるものは、秋の七草についても全部とは言えないまでもいくつか言うことができる傾向があります。

もう一つ別の例を紹介します。「6月は30日か、31日か？」と聞かれて、皆さんはどうやって大の月・小の月を区別しているのでしょうか。「西向く士（サムライ）小の月」と語呂合わせで覚えている人と、げんこつを作って骨の飛び出ている部分を数える人に分かれるのではないかと思います。それでは、この方法はいつ、誰に教わって覚えたのでしょうか。「きっと、小さい頃に祖母に教えてもらったのだと思う」、「小学校の低学年の時、先生から聞いた」などと答えるのではないでしょうか。

これも春の七草と同様に日常生活の中で適切なことば掛けをしてもらって身に付けている知識（常識）です。

このほかにも、小学生が学習する様な基本的な学習内容（漢字の読み書きや、四則計算、国内の県名、花の名前など）や対人関係のスキル（相手を思いやる、弱いものは助ける、嘘をつかないなど）も、いつ誰に

教わったのかは明確ではないけれど身に付けているものがたくさんあると思います。

これらの常識や基礎的な学力というのもライフスキルの重要な要素だと思います。

ライフスキル…とは

- ▶生きていくために、身につけておかなければならない能力
- ▶教科学習の基礎・基本のライフスキル
  （九九が唱えられる、漢字が読めるというのも）
- ▶社会常識もライフスキル
- ▶善悪の判断、自分を大切にすること
- ▶相手を大切にすることもライフスキル

私は小学校入学を控えた幼児の保護者を対象に、「お子さんに身に付けておいてほしいこと10か条」の話をします。

保護者の中には「そんなことを身に付けておくだけでよいのかと」不思議がる方がおりますが、ここに書かれていることすべてを身に付けて小学校に入学した子どもは、低学年の内はクラス内で勉強及び身辺自立とも上位グループに入ることができます。

こんなことはできますか？

- ☑ ちょうちょ結びやはちまき結びができる
- ☑ 乾いた洗濯物を自分のタンスにしまう
- ☑ ぞうきんをきちんと絞る
- ☑ 台拭きでテーブルの上の食べかすをふき取る
- ☑ 食事のときの配膳
- ☑ カレーライスなどを自分で盛りつける
- ☑ 自分の好きな番組の放送曜日、時間がわかる
- ☑ 折り紙を折って、いろいろな作品を折る
- ☑ 線に沿ってはさみでいろいろな形を切りぬく
- ☑ 友達と仲良く、楽しく遊ぶ

「生きる力」の育成を支えるライフスキル

学習指導要領においては、「生きる力」を育むことを大切にしています。

「生きる力」とは、将来、子どもたちが、『答えのない問題』に対峙した時に、それまで習得した「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「学びに向かう力（意欲）」を総動員して、答えを見つける力のことだと思います。

現在であれば、「コロナ問題」「地球の環境問題」「人種差別の問題」などが当てはまるのではないでしょうか。これらの解決策は、そう簡単には見つかりません。けれども、人々が協力して、知恵を出し合えば必ず解決の糸口は見えてくるはずです。

その「生きる力」を支えるものは、ライフスキル教育によって身に付けていくことができるのではないかと思います。

生きる力…「教わる」から「教える」へ

〈正解・正答がある学び〉

- ▶分からなかったら、親や先生が答えを教えてくれる
- ▶正解がある…見れば分かる
- ▶親や先生に分からなくても、詳しい人に聞けば分かる

〈正解のない問題、生きる力がないと解けない問題〉

- ▶コロナ問題、宗教問題、人種差別問題
- ▶地球の環境問題、沖縄の基地問題
- ▶職場の人間関係の問題、恋愛問題
- ▶学力向上問題、いじめ問題、体力向上問題
- ▶子育て問題

子どもの指導において大切なこと

子どもの教育には、適切な指導と必要な支援をバランスよく提示していくことが大切です。ボランティア、介助の感覚で何でも手伝っていたのでは子どもに力は付きません。

先ほど述べた「必要な時に必要なことを確実に定着させる」というのは「指導」です。これがうまくできていないというのが、昨今の教育課題だと思います。一方、「支援」のしすぎというのも問題です。子どもができることや一人でできるようにさせるべきことは「支援」する必要はありません。苦労したとしても見守ることが本当の「支援」です。

頭に「お」を付けると、ことばは丁寧になりますが、支援を丁寧にすると「教えん（お支援）」、躾は「押しつけ（お躾）」となります。

ライフスキルも、手出しをせずに見守ることによって、子ども自身にその力を習得させることが必要な場面があると思います。

子どもの指導において大切なこと

1. 適切な指導（躾）と必要な支援
2. 丁寧すぎると…
   「教えん（お支援）」、「押しつけ（お躾）」
3. 自分で頑張ることを経験させる
4. 見守る

おわりに

本稿をお読みの皆さんは、ライオンズクエストプログラムには造詣があり、ワークショップも経験している方が多いことと思いますが、まだ参加したことがないという方は、是非ワークショップを体験してください。

きっと、翌日からの仕事や人間関係に活用できるノウハウを得ることができると思います。

〈普及活動事例〉

継続的な普及活動のために

ライオンズクラブの支援

大西教授がライオンズクエストプログラムと出会うきっかけから、ワークショップの参加者が満員御礼となるまで。そこにはいつもライオンズクラブの皆様のご努力があります。普及活動を支えているライオンズクラブのアクティビティをご紹介します。

ライオンズクラブ国際協会332-C地区
ライオンズクエスト・薬物乱用防止委員会
委員長
新木経嗣

よくわかりませんが、やってみましょう

2018年、委員長を拝命するにあたり、東北福祉大学ライオンズクラブへ委員会構成員の推薦をお願いし、大西教授を含む2名が参加しました。ところが、時間が合わず、一向にお会いできません。「ライフスキル教育入門」著者の一人である、NPO法人Synapse40代表理事の千葉繁美氏に同席をお願いし、私が出向き、教育学部へライオンズクエストプログラムの導入をお願いしました。講演会の通り、「よくわかりませんが、やってみましょう」という事になったのです。

3年後、口コミですぐに満員御礼

1期目は体験セミナーを開催しましたが、参加者は、大西教授お1人、学生は0名でした。2期目は大西教授が理解されたことで、学生への案内が容易になり、WS参加が40名。今期は、口コミで、募集開始から数日で定員に達し、2回に分けて76名が参加しました。

複数年にわたって委員会所属

↑ライオンズクエストプログラムを取り入れた委員会開催の様子

日本では学校年始が4月、LCは7月が始業です。教育機関を主体に考えると、LQPの普及活動は前年度から準備する必要があります。332-C地区の当委員会については、委員長3期、構成員2期の原則ルールを敷いています。任命権者である地区ガバナーのご理解が必要ですが、事業を継承していく為には有効な方法です。また、2006年の委員会創設以来、経験豊富な先輩方が顧問として牽引してこられました。

私は、先輩方が伝承してきた口伝による指導を減らし、できる限り書面に落とし、新しく加わった構成員にも、わかりやすく解説することを意識して運営に努めております。

↑2019-2020年度 LCIFより日本初のライオンズクエスト・チャンピオン賞を受賞

地区に多くの案内役を！

ライオンズクエストの理解が進まないのは、正しい知識の習得と案内人の不足がひとつの要因と思われます。委員長就任時、地区には説明員が3名いました。「普及のためにも、332-C地区全11ゾーンに各1名、説明員を配置したい。できれば地域で発言力のある方になってもらいたい。」ご賛同頂いた、永冨淳次ガバナーを含む9名が、3期越しで説明員に加わりました。また、認定講師の寺本之人氏著「ライフスキルで進めるキャリア教育」を委員会学習本にしております。

ニーズを探っていく

教育現場のニーズに合わせて、普及活動を進めていくことも重要だと思います。文科省の学習指導要領、宮城県や仙台市の教育方針のどこにLQPが響くか思案し、募集要項の改定を重ねています。また、ワークショップ受講者が実践情報を共有したり、学びを深めたりする場づくりを、NPO法人Synapse40と協力し模索してきました。5月に本格稼働の予定です。

平成29年度から学習指導要領が改定されました。また、地域学校共同活動やコミュニティー・スクールを導入する自治体が増えています。私はLQPを提案するための追い風が吹いていると感じています。地域の子ども達の為に、子どもを取り巻く大人達の為に、普及啓発のお手伝いを続けたいと考えております。

〈普及活動事例〉

学校・地域の課題に合わせた研修開催

アクティブラーニングで「いじめを生まないクラスづくり」を考える

2020年10月13日、岐阜金華ライオンズクラブの支援で、岐阜市教育研究所主催の「いじめ」をテーマとするワークショップが開催されました。参加者は、岐阜市内全校に配置されている「いじめ対策監」70名で、ファシリテーターをライオンズクエスト認定講師がつとめました。テーマはいじめを生まないクラス作りで、そのために子どもたちにつけたい力、教員に求められる力、明日からできる具体的な取り組みなどについて、ひとり一人考え、グループで話し合い、全体に発表するという、参加者が主体的に学ぶアクティブラーニング方式で、いじめをなくすための知恵と経験を共有しました。

今回は「いじめ」を取り上げましたが、ライオンズクエストプログラムをベースに、学校が直面している課題に特化して研修を行うという方式の効果が実証され、また多数の参加者による、“新しいワークショップ様式”としての展望が開けました。

参加者の声

研修形態がアクティブラーニングでしたので、一日の研修に主体的に参加することができました。長時間ではありましたが、短く感じました。ライオンズクエストプログラムの資料をいただき、この一日で私たちが話し合い結論をだしてきたことが、たくさん書いてありました。この研修には大きな実りがあったことを実感することができました。

市内の学校でそれぞれいじめ対策監という同じ立場の先生方と課題に向かって個で考えたり共に考えたりして、一つのものを創り上げるという活動が非常に充実していました。

教育委員会担当者の声

学校安全支援課（前 学校指導課）　忍 伸哉

いじめ防止を考える際に、とかく方法論ばかりに目が行きがちになりますが、貴団体のプログラムは、いじめに対する見方、考え方、いじめの雰囲気を感じとる感性、いじめに向かう構え等、原点に立ち帰る機会となりました。また、道徳的な価値や自己肯定感などを基盤としながら、双方向のコミュニケーション能力を高める必要性など、違った角度でのアプローチの在り方の示唆をいただきました。ワークショップでは、いじめという共通の問題意識をもった者同士、多様な考えに触れることで、いじめの本質的な部分を探る研修となり、大変有意義でした。

開催支援者の声

岐阜金華ライオンズクラブ ライオンズクエスト委員長　L. 早﨑 敏

コロナ禍の中で開催が危ぶまれましたが、「いじめ」の解決に使命感を持たれる対策監は、研修を通じて目的を共有し、児童・生徒が楽しく学べるための安心安全な、いじめのない学校環境をつくるための取り組みを学んでいました。いじめ撲滅に全力で取り組んでおられる教師と教育関係者の気持ちが伝わってきた研修で、ライオンズクラブとしましてもやりがいのある支援活動でした。

担当ファシリテーターの声

ライオンズクエスト認定講師　北山 敏和

今回確認できたのは、

1. 課題に特化したワークショップの効果
2. 多数でも参加者主体の研修が可能
3. コロナ禍でも効果的なワークショップが可能

という3点です。与えられた条件で最善を尽くす、ライオンズクエストの神髄です。

〈実践事例〉

オンライン創造力教室

子どもたちを信じる！

学校外でのライフスキル教育実践として、不定期で「創造力教室」を開催しています。「自分たちの力で」に重点を置き、仲間づくりや課題に取り組んでいき、ライフスキルを身につけ、実践していきます。2020年は、オンラインで開催しました。子どもたちの柔軟性や適応力に驚くばかり。子どもたちの力を信じてまかせてみれば、子どもたちはもっている知識や経験から学び合えることを実感しました。

知らない人は、これから友だちになる人

今回は、大きなテーマを「自分を表現　他者を理解」としました。宮城・埼玉・東京・沖縄から9名の子どもたちが参加。2〜6年生まで、年齢もバラバラです。どんな集団でも人間関係と安心安全な環境づくりが基礎。初回はスタッフも子どもたちも緊張していましたが、徐々に顔がやわらなくなっていき、お互いに声をかけあい、自然と関係ができていました。回を重ねていくと、すっかり仲間に。スムーズにグループ活動を進めることができるようになり、お互いの得意不得意も把握し、学年が上の子が下の子をフォローし、助け合うことができるようになっていました。

1. お互いのことを知ろう
2. みんながいごこちよくなるルール
3. 上手な話の聞き方　伝え方
4. 感情の強さ、感じ方、表す行動
5. 感情のコントロール
6. 考えて、予想して、選ぶ
7. 目標設定
8. 賞賛を伝える、ふり返り

子どもたちはできる！

はじめてオンライン会議ツールを利用する子もいましたが、全体活動はもちろんのこと、ブレイクアウトセッションでの話し合いも問題なく進行できました。また、オンラインのため、通信状況が不安定になることもありましたが、あわてることなく対応できていました。近くにいる大人に助けを求める、このときどうだった？と聞く、他の人の発言を聞いて状況を推測する、ということができていたと思います。適応力のある子どもたちの姿は、とても頼もしく見えました。「子どもだから」という言葉で決めつけてしまい、大人が指示をだしたり手を貸したりするのではなく、子どもたちの力を信じて、まかせてみる、待ってみることの大切さを痛感しました。

説明は最小限

進めていくにあたって「大人の説明は最小限」を意識しました。いろいろと説明したり教えたりしたくなりがちですが、そこをぐっとこらえて、あえて言わない。言わない＝教えない、ということではなく、子どもたちが知っている知識や経験から気づいてもらうようにするためです。大人からは、簡単な説明をしたら、「〇〇について話し合ってね」や「〇〇なときはどうする？／どう思う？」と言うだけです。子どもたちの話し合いの様子や発表を見聞きしていると、説明しようと思っていたこと、教えようとしていたことが含まれていることがほとんどでした。大人は、子どもたちがもっている知識や経験を引き出し、そこから学ぶことをサポートする役割であることを実感しました。子どもたち自身も、教えられるのではなく、自分たちの活動を通した学びのほうが、身につくと思います。

これからの時代を生きる子どもたち

コロナ禍によって変化した社会において、オンラインも社会活動を行う場所として当たり前になってくると思います。オンラインツールが使えること、オンラインを通した人間関係の構築も大事なライフスキルになるでしょう。子どもの頃からオンラインの環境に慣れ、そこでもライフスキル教育を基礎としていくことで、これからの時代を生きていく子どもたちの生きる力が育まれていくと思います。

※オンライン創造力教室の様子は、Youtubeにアップしています。どなたでもご覧いただけますので、よろしければのぞいてみてください。

https://www.youtube.com/channel/UCi_lFmNbF4En0f8ZQWsvjnA

〈普及活動事例〉

学校外への「ライフスキル教育」の導入

日本財団「子ども第三の居場所」へのライフスキル教育の導入サポート

JIYDでは2017年より、公益財団法人日本財団が全国各地に設立を進めている「子ども第三の居場所」へのライフスキル教育の導入に協力しています。日本財団では「子ども第三の居場所」の設立を通じて、様々な理由で困難に直面している子どもたちが社会を生き抜く力を育む機会を提供することを目指し、大切にしている5つの機会の一つに「非認知能力（ライフスキル）を育む体験」をあげています。JIYDは、それぞれの居場所（拠点）の実態に合わせてライフスキル教育を取り入れ、子どもたちの非認知能力を高める活動をサポートするために、スタッフ研修や教材資料の開発・提供を行っています。

2020年度は、コロナ禍の影響を受けながらも、幾つかの居場所のサポートができました。居場所の子どもやスタッフの反応、今後の実践への期待や課題など、現場の声をご紹介します。

課題の分析…、まずは出来る事からアクション

沖縄県うるま市　b&gからふる田場　事業統括　平林　勇太

JIYDの協力で2020年度に5回の研修を行うことが出来ました。コロナ禍での開催でしたが、すべて対面で行う事が出来、より濃い研修を行うことが出来たこと本当に感謝いたします。

現在の活動は「子どもの貧困脱却」と未知の領域の活動として、いつも職員同士手探りで活動しており、色んな不安や「本当にこれでよいのか」など、スタッフは悪戦苦闘している現状がありました。そんな中この研修を行い、非認知能力や子ども達との関わりの重要性、現在活動している意義を感じることが出来ました。研修の中で子どもにとって「大人の力」「近くに大人がいる事だけでも意味がある」との話を聞いて肩の力が抜け、居場所の存在意義の根底にある安心安全の意味を再確認することが出来ました。また子ども達を信じる力の構築。「なぜ課題となっているのか」課題の分析を行うことで子どもの状態を細分化し、「これからどのようなアクションが出来るのか」など、まずは出来る事からアクションすることが重要との認識を得ることが出来ました。研修後は毎日、子どもとのミーティングを開催し、アイメッセージを伝える事を重視し、嬉しかった事、悲しかった事などのシェアを子ども達、スタッフも行えるようになり、対人間として関われる機会が多くなったように思います。

スタッフからは、「スタッフ側から見える課題（例：言動が悪い）をどう声掛けしたらいいかわからなかったが、子ども達がそもそも善悪を理解していない、伝える方法がわからない事もあるとのことが分かった、子ども達への声掛けのヒントもたくさんもらえた」、との声もありました。

今後はこの研修をイベントとしてではなく、日常的に活用していくことを意識し子ども達スタッフ共に成長しあえる居場所を目指していきたいと思います。

日本財団「子ども第三の居場所」
https://www.nippon-foundation.or.jp/what/projects/child-third-place

〈普及活動事例〉

資料集開発「ライフスキルで育てる ひとりで生きる力！みんなと生きる力！」

見てわかる 誰でも使える

学校外でのライフスキル教育の普及促進をはかるための、指導案集全3巻を制作。
全部で32の指導案が収録されています。

ポイント

1. イラストがたくさんあり、見るだけでイメージがわきます
2. 先生でなくても、ライフスキルを学んだことがなくても指導できます
3. 居場所、学童保育所、スポーツクラブなど、少人数対象でもOK
4. 短時間でOK、ゲームだけなら5分でOK
5. 読むだけでも楽しく学べます

私たちは小さいときから、さまざまなことを学び、できるようになってきました。そこには、とても単純な“学びのしくみ”があります。例えば、ひらがなやカタカナ、そしてちょっと複雑な漢字は、どのようにして読めるようになり、書けるようになったのでしょうか。逆上がり、楽器の演奏、絵を描くなどを思い浮かべてみると、すべてに、

❶方法（やり方）を学んで
❷くりかえし練習して　❸経験を積む

というプロセスがあることがわかります。（中略）
この冊子は、人生にとってとても大事な能力のうち、数値で評価できない、学校の成績としてはあまり評価されないライフスキル（ソフトスキル／非認知能力）を、楽しく学べるように企画しました。見開き2ページの中に、それらを学ぶ方法と練習の仕方 を簡潔にまとめています。子どもたちといっしょに楽しく学んでいるうちに、私たち大人が自信と夢と目標を持てるようになるかもしれません。
（第2巻「はじめに」から抜粋）

2021年4月現在、第1巻・第2巻・第3巻を発行しています。ちょっとお得な3巻セットもあります。

▼ご購入はこちらから
https://still-silence-490.stores.jp/

第3巻「ふりかえって前に進もう！」

2020年度事業報告

①コロナ禍、新しい生活様式でのWS開催、開催数は20回

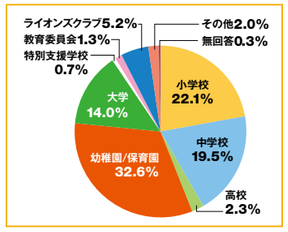
ライオンズクエストプログラムのワークショップはプログラムの理念や指導方法について体験的に学習し、児童・生徒に実施できる指導者を養成する研修会です。2020年はコロナ禍で様々な制約を受けながらも、開催地の関係者と密に連携しながら開催地の感染症予防対策が守られる方法で開催しました。

▶地域・学校の課題・ニーズに合わせた普及活動

各ワークショップで、開催地の主催者(学校・教育委員会、ライオンズクラブ)から、研修テーマの要望を聞き取り、研修内容に反映するように努めました。要望の多かった研修テーマは、「コミュニケーション能力」、「アクティブラーニング」、「学級経営」、「いじめのない学級づくり」、「教師のスキルアップ・指導スキル向上」などでした。

■2020年 ワークショップ開催数・修了者数実績

形式	開催数	修了者数〈基本編〉	修了者数〈実践編〉
基本編	12	234	-
基本編＋実践編	5	127	108
実践編	3	-	20
合　計	20	361	128



▶校種別では、幼稚園・保育園の教諭や保育士が32.6%と最も多く、次いで小学校教員22.1%、中学校教員19.5%。
▶年齢別では、20代46.6%、30代19.9%、40代12.7%。

②テーマに特化した、様々な形式の研修会・セミナーの実施

ワークショップのような既定の形式や条件による開催とは異なり、学校・教育委員会等の要望するテーマや時間に合わせて、様々な形式の研修会やセミナーを開催しました。より幅広く教育現場からのニーズに対応することを目指すもので、ライオンズクエストへの関心を喚起し、プログラム導入につながることも期待しています。コロナ禍、他県からの外部講師招聘不可となった学校にて、講師のみオンラインで参加するフォローアップ校内研修も実施しました。

■テーマに特化した研修会・セミナー開催一覧

開催	対象	研修テーマ
1月	北海道 知内高等学校	生きる力を育てる、いじめについて考える
1月	兵庫県加西市立 宇仁小学校	ゲーム依存症の児童への対処を考える
3月	石川県能美市立 和気小学校	学級開き、話の聞き方、グループ活動、等
10月	岐阜県岐阜市 いじめ対策監	いじめを生まないクラスづくり
11月	富山県富山市立 大泉中学校	フォローアップとして実施授業への助言等

③認定講師養成

2020年はコロナ禍により養成課程の進行にも大きな影響がありましたが、オンラインも活用しながら前進しました。なお、今年度の講師養成には、公益財団法人日本財団、及びライオンズクラブ国際協会330-A地区(LCIFライオンズクエスト交付金事業)より費用の一部をご支援いただいています。

④ライオンズクエスト説明員は全国に89名* (*2020年12月末)

ライオンズクエスト説明員は、ライオンズクラブの推薦を受けたライオンズメンバーなどで、JIYDの講習を受けてプログラムの説明・模擬授業を含めたセミナーを実施できるようになった方です。地域の学校や教育委員会を訪問して説明会やセミナーを開催したり、ライオンズクラブの例会や会合等でプログラムを紹介する活動をしています。2020年は9名を養成しました。

⑤新しい書籍発行

「ひとりで生きる力！みんなと生きる力！」第1巻、第2巻発行。

⑥普及活動のニュース紹介・共有ツールを増幅

HPを見やすく更新、SNS(Facebook)を活用し日々の普及活動に関わるニュースを拡散、新たに2020年11月より、不定期発行の瓦版「みんなのライフスキルタイムズ」の発行を開始しました。

2020年度決算報告 ①

貸借対照表 2020年12月31日現在

(単位：円)

科　目	当期分	前期分	差　異
《Ⅰ資産の部》			
【流動資産】			
現金・預金			
一般口	1,057,187	912,609	144,578
立替資金口　※1	25,714,746	26,312,863	△ 598,117
貯蔵品	4,218,541	6,305,722	△ 2,087,181
前払費用	261,959	1,263,614	△ 1,001,655
未収入金	808,757	17,311,337	△ 16,502,580
流動資産合計	32,061,190	52,106,145	△ 20,044,955
【固定資産】			
什器備品	3	3	0
ソフトウェア	11,447,017	7,354,152	4,092,865
敷金	300,000	300,000	0
ライフスキル教育普及事業積立預金　※2	10,000,000	10,000,000	0
固定資産合計	21,747,020	17,654,155	4,092,865
資産の部　合計	53,808,210	69,760,300	△ 15,952,090
《Ⅱ負債の部》			
【流動負債】			
未払金	780,040	2,087,201	△ 1,307,161
前受助成金　※3	6,860,000	4,732,000	2,128,000
預り金	102,229	262,256	△ 160,027
未払消費税	0	97,200	△ 97,200
流動負債合計	7,742,269	7,178,657	563,612
【固定負債】			
固定負債合計	0	0	0
負債の部合計	7,742,269	7,178,657	563,612
《Ⅲ正味財産の部》			
前期繰越正味財産額	62,581,643	68,637,679	△ 6,056,036
当期正味財産増減額	△ 16,515,702	△ 6,056,036	△ 10,459,666
正味財産の部　合計	46,065,941	62,581,643	△ 16,515,702
負債及び正味財産の部　合計	53,808,210	69,760,300	△ 15,952,090

※1. ライフスキル事業の運転資金です。
※2. ライフスキル事業に於ける中・長期積立金で、教材開発など予測される付随事業への充当、および長期に渡る活動の維持を目的としています。
※3. 日本財団からの助成金のうち、未使用助成金です。

2020年度決算報告 ②

活動計算書（2020年1月1日から　2020年12月31日まで）

（単位：円）

科　目	当期分	前期分	差　異
《I 経常収益》			
【受取会費】			
正会員受取会費			
個人	280,000	200,000	80,000
法人	50,000	0	50,000
受取会費計	330,000	200,000	130,000
【受取寄付金】			
使途指定寄付金	160,000	0	160,000
一般寄付金	185,000	20,000	165,000
受取寄付金計	345,000	20,000	325,000
【受取助成金-ライフスキル教育普及事業】※1			
ライオンズクラブ国際財団	6,147,934	40,652,954	△34,505,020
日本財団	5,622,000	1,648,000	3,974,000
森村豊明会	1,500,000	0	1,500,000
その他	1,974,185	3,054,901	△1,080,716
受取助成金-ライフスキル教育普及事業計	15,244,119	45,355,855	△30,111,736
【事業収益-ライフスキル教育普及事業】			
ワークショップ参加費収益	351,000	4,582,000	△4,231,000
日本財団	0	538,045	△538,045
その他:体験会謝礼等	1,070,454	1,885,992	△815,538
事業収益-ライフスキル教育普及事業計	1,421,454	7,006,037	△5,584,583
【その他収益】			
受取利息	773	1,407	△634
雑収入			
ワークショップキャンセル料	0	36,000	△36,000
書籍売上	585,940	105,300	480,640
その他　※2	4,081,471	0	4,081,471
その他収益計	4,668,184	142,707	444,006
経常収益計	22,008,757	52,724,599	△34,797,313
《II 経常費用》			
【事業費】			
(1)人件費			
給料手当	10,323,333	11,720,600	△1,397,267
法定福利費	1,073,605	1,192,492	△118,887
通勤費	128,799	472,921	△344,122
人件費計	11,525,737	13,386,013	△1,860,276
(2)その他経費			
謝金　※3	3,166,074	11,881,614	△8,715,540
通信費	2,100,096	1,170,222	929,874
荷造運賃	342,840	1,327,109	△984,269
旅費交通費	2,370,928	8,917,818	△6,546,890
消耗品費	143,728	324,097	△180,369
会場費	0	506,443	△506,443
家賃	1,320,000	1,304,000	16,000
租税公課	800	0	800
リース料	555,564	419,077	136,487
支払手数料	1,151,439	696,821	454,618
印刷費　※4	1,469,529	5,084,136	△3,614,607
減価償却費	2,736,495	817,128	1,919,367
ライセンス料　※5	728,338	1,493,370	△765,032
外注費	2,917,522	2,990,845	△73,323
その他　※6	223,046	290,452	△67,406
その他経費計	19,226,399	37,223,132	△17,996,733
事業費計	30,752,136	50,609,145	△19,857,009
【管理費】			
(1)人件費			
給料手当	3,491,222	3,526,556	△35,334
法定福利費	1,160,715	1,125,918	34,797
通勤費	82,277	245,335	△163,058
人件費計	4,734,214	4,897,809	△163,595
(2)その他経費			
支払報酬　※7	220,000	238,222	△18,222
通信費	233,471	237,540	△4,069
荷造運賃	52,194	36,171	16,023
水道光熱費	107,125	128,768	△21,643
旅費交通費	101,414	264,409	△162,995
消耗品費	63,874	109,950	△46,076
会場費	36,600	111,660	△75,060
家賃	1,320,000	1,304,000	16,000
租税公課	528	97,421	△96,893
リース料	555,564	419,077	136,487
支払手数料	67,280	65,344	1,936
印刷費	9,320	18,520	△9,200
減価償却費	0	0	0
その他　※8	270,739	242,599	28,140
その他経費計	3,038,109	3,273,681	△235,572
管理費計	7,772,323	8,171,490	△399,167
経常費用計	38,524,459	58,780,635	△20,256,176
当期経常増減額	△16,515,702	△6,056,036	△10,459,666
《III 経常外収益》			
経常外収益計	0	0	0
《IV 経常外費用》			
過年度損益修正損	0	0	0
経常外費用計	0	0	0
当期正味財産増減額	△16,515,702	△6,056,036	△10,459,666
前期繰越正味財産額	62,581,643	68,637,679	△6,056,036
次期繰越正味財産額	46,065,941	62,581,643	△16,515,702

※1.細目として、ライオンズクラブ国際財団のライオンズクエスト交付金事業に関わる受取助成金は「ライオンズクラブ国際財団」と表記しています。　※2.持続化給付金、家賃支援給付金、雇用調整助成金、消費税還付金が含まれます。
※3.ライオンズクエスト認定講師に対する謝金です。　※4.教材、パンフレット、書籍、年次報告書、名刺印刷です。
※5.ライオンズクラブ国際財団（LCIF)に対するライオンズクエスト・プログラムの著作権料です。
※6.会議費、修繕費、雑費が含まれます。　※7.会計監査報酬です。
※8.広告宣伝費、会議費、図書資料費、保険料、諸会費、修繕費、雑費が含まれます。

財務諸表に対する注記

①重要な会計方針

財務諸表の作成は、NPO法人会計基準（2010年7月20日　2011年11月20日一部改正 NPO法人会計基準協議会）によっています。

1. 棚卸資産の評価基準及び評価方法 — 棚卸資産の評価基準は原価基準により、評価方法は最終仕入原価法によっています。
2. 固定資産の減価償却の方法 — 有形固定資産は法人税法の規定に基づいて定率法により直接償却を行っています。
3. 消費税等の会計処理 — 消費税等の会計処理は税込経理方式によっています。

②事業費の内訳

ライフスキル教育事業には、ワークショップの開催、セミナーの開催、教材開発・改訂事業、認定講師養成事業、評価事業等が含まれます。

広報事業には、年報の発行、ホームページの運営・管理が含まれます。

	ライフスキル教育事業	広報事業計	事業費計
(1)人件費			
給料手当	10,083,333	240,000	10,323,333
法定福利費	1,073,605	0	1,073,605
通勤費	128,799	0	128,799
人件費計	11,285,737	240,000	11,525,737
(2)その他経費			
謝金	3,166,074	0	3,166,074
通信費	2,090,790	9,306	2,100,096
荷造運賃	303,276	39,564	342,840
旅費交通費	2,370,928	0	2,370,928
WS昼食代	0	0	0
消耗品費	143,728	0	143,728
会場費	0	0	0
家賃	1,320,000	0	1,320,000
リース料	555,564	0	555,564
支払手数料	1,150,559	880	1,151,439
印刷費	1,418,199	51,330	1,469,529
減価償却費	2,736,495	0	2,736,495
ライセンス料	728,338	0	728,338
外注費	2,802,362	115,160	2,917,522
その他	223,846	0	223,846
その他経費計	19,010,159	216,240	19,226,399
合計	30,295,896	456,240	30,752,136

③固定資産の増減内訳

科目	期首取得価額	増減	期末取得価額	減価償却累計額	期末帳簿価額
什器備品	459,165	0	459,165	459,162	3
ソフトウェア	8,171,280	6,829,360	15,000,640	3,553,623	11,447,017
敷金	300,000	0	300,000	0	300,000
ライフスキル教育普及事業積立預金	10,000,000	0	10,000,000	0	10,000,000
合計	18,930,445	6,829,360	25,759,805	4,012,785	21,747,020

監査報告書

監 査 報 告 書

2021年度のライフスキル教育普及活動は、以下の6点に注力します。

❶ 地域・学校の課題・ニーズに合わせた普及活動の浸透

地域・学校のさまざまな教育課題・ニーズに対する取り組みの一環としてライフスキル教育／ライオンズクエストプログラムを導入・実践していくことを提案し、そのための支援を引き続き推進します。

↑2021年1月開催ワークショップ風景写真@福岡県福岡市

教員や青少年指導者を対象としたライオンズクエスト・ワークショップなどの各種研修会では、対象地域・参加者の要望（課題・ニーズ）を取り入れ、研修目的を明確にし、参加者の目的意識、参加意欲を高め、受講後の実践につながる支援を行うことの浸透を図っていきます。

↑2020年12月開催ワークショップ風景写真@岩手県奥州市

❷ オンライン・ワークショップの開発・試行

コロナ禍をきっかけに“オンライン”が浸透している状況を踏まえ、そのメリットを活かした、従来のものを単にオンラインに置き換えた形ではなく、新しい形のライオンズクエストのオンラインによるワークショップの開発に取り組みます。

本年中にオンライン・ワークショップの試行を計画しています。ワークショップを初めて受講する受講者向けのものに加えて、実践のスキルアップやライフスキル教育について更に理解を深める機会となるような、既受講者（修了者）向けのものも試行する計画です。

❸ 認定講師の養成

ワークショップの開催時期が夏休み期間中に集中することや開催形式の多様化（新形式、課題・ニーズに合わせた内容、対象の拡大）を踏まえ、ライオンズクエスト認定講師の増員養成を進めています。本年も引き続き、現在の講師候補者5名の養成を進めます。

❹ 学校外への「ライフスキル教育」導入

学校外の子ども・青少年活動の場（放課後活動、居場所など）への普及活動を引き続き推進します。本年の取り組みは以下のとおりです。

▶日本財団が設置を進めている「子ども第三の居場所」へのライフスキル教育の導入サポートを実施します。昨年に引き続き、最大8箇所への導入を目指します。「子ども第三の居場所」の詳細は以下の日本財団のホームページ参照
https://www.nippon-foundation.or.jp/what/projects/child-third-place

▶放課後の「習い事」として子ども（主に小・中学生）がライフスキルを学習する「想像力教室」を開催しています。昨年のオンラインによる開催実績をもとに、同様の方法で開催することを計画しています。

❺ 学校外でも活用できる資料集の第３巻発行

日本財団「子ども第三の居場所」へのライフスキル教育導入サポートを進める中で得た知見や現場からのニーズをもとに、居場所のような学校外の教育現場でより使い易いライフスキル教育資料集を開発しています。本年は、昨年発行した第1巻と第2巻に続く第3巻を発行します。全3巻に32のスキル学習指導案が収録され、現場のニーズに合わせて、年間を通じて様々なスキル学習ができる資料集が整います。

❻ 説明員研修会／地区関係者勉強会のオンライン開催

全国の説明員の皆さまとライオンズクエスト関係者が、年に一度、一堂に会する機会である「説明員研修会／地区関係者勉強会」。コロナ禍、全国から集まるのが難しく、昨年は開催を見送りましたが、本年は新しい試みとして、オンラインでの開催を計画します。

↑2020年7月12日 Facebook Lions Quest ライフスキル教育プログラム_official掲載動画より　JIYD撮影

2020年度会員 （2021年2月末日現在）

◯個人：41名　法人：1社

大島 賢三　島田 佳宣　田川 薫　谷 和実　塚本 平二　松尾 信武　満島 章　武藤 博昭　山田 礼子
トヨタエルアンドエフ東京株式会社

※上記の会員の個人名・法人名は掲載をご承諾頂いた方のみ掲載しています。（敬称略、五十音順）

理事会 （2021年4月1日現在）

理事長	野村　彰男	公益財団法人日本国際連合協会　理事
		公益財団法人人権教育啓発推進センター　評議員
理事	中雄　政幸	特定非営利活動法人 青少年育成支援フォーラム　ファウンダー（前事務局長、L.）
	栗田　收司	元日本ビクター株式会社取締役
	西田　浩子	公益財団法人かめのり財団　理事・事務局長
	佐渡　涼子	ライオンズクエスト認定上級講師
	北山　敏和	ライオンズクエスト認定講師
		教育学/健康教育学講師
	足達　靖彦	ライオンズクラブ国際協会335-C地区　名誉顧問・元地区ガバナー
		学校法人明珠学園理事、京都翔英高等学校副校長
	馬渕　英晃	特定非営利活動法人　青少年育成支援フォーラム　事務局長兼務
		ライオンズクエスト　カントリーディレクター
名誉理事	守隨　武雄	パナソニック株式会社　客員
	藤本　厚子	元幼稚園教諭
監事	山本　和夫	東京ライオンズクラブ元会長　公認会計士

（L.=ライオンズメンバー）
（就任時期順、五十音順）

ライオンズクエスト認定講師 （2021年4月1日現在）

岡松 佐知子　北山 敏和☆　佐渡 涼子*☆　篠田 康人　柴 咲子
寺本 之人　外川 澄子　中村 千恵子　原田 達明

（*=認定上級講師、☆=青少年育成支援フォーラム理事　五十音順）

講師プロフィール等は、Lions Questライフスキル教育プログラムのホームページに掲載しておりますので、ぜひご覧ください。
http://lionsquest-japan.org

JIYDのネットワークと活動

皆様のご理解・ご支援をいただきながら、事業パートナーと協同して、「ライフスキル教育」の普及に取り組んでいます。

ライオンズクラブ国際協会（LCI）

世界中に4万8千を超えるクラブ、140万人以上の会員を有する世界最大の奉仕団体で、200を超える国・地域でメンバーは地域奉仕に取り組んでいます。ライオンズクラブの活動分野は、視力関係、地域奉仕活動、環境、災害救援など、多岐にわたり、ライオンズクエストプログラムの普及を含む青少年育成はその一つです。

○JIYDは、LQ実施団体として、ライオンズクラブによる普及活動をサポートするとともに、協同して普及活動に取り組んでいます。

ライオンズクラブ国際財団（LCIF）

人類の奉仕に貢献することを目的に、LCI により設立されました。2002 年にライオンズクエストプログラムの著作権を取得し、同財団の青少年健全育成プログラムとして、世界各国のライオンズクラブによる普及活動を支援しています。

○JIYDは、2003年以降、LCIFより日本におけるライオンズクエスト実施団体として指定されています。

International Youth Foundation（IYF、国際青少年育成財団）

ライオンズクエストプログラムを開発したリック・リトルにより 1990 年に創設されました。青少年の置かれている状況と将来展望を改善すべく、世界各地の団体とパートナーシップ関係を結び、各地の青少年のニーズに合致した事業を見出し、広めています。

○JIYDは、1997年にIYFの日本事務局（IYF-Japan）として設置され、2002年にNPO法人化して以降、現在もGlobal Partner Networkのメンバーです。

公益財団法人　日本財団

日本財団が全国へ設置を進める「子ども第三の居場所」へのライフスキル教育プログラムの導入に協力して取り組んでいます（2017 年度以降）。またライフスキル教育普及活動の基盤整備の為、ワークショップ（研修会）講師の養成や電子版教材配信システム構築に対してご支援いただいています（2019 年度以降）。

企業・団体・個人

JIYD の事務局運営や「ライフスキル教育」普及事業に対して、ご支援をいただいています。

JIYD

特定非営利活動法人
青少年育成支援フォーラム

VISION

すべての青少年が、右記にあげる「5つの財産」をもって成長していくことのできる社会を目指します。

1. 無条件に受け入れる大人が一人でもいる
2. 眠り、遊び、学び、「居る」ことのできる安全で安心できる場所
3. 心身ともに健康な生活習慣
4. 人のためになることをする機会
5. 社会人として自立できる技能、知識、価値観を身につける機会

MISSION

より多くの青少年に、よりよく役立つプログラムの拡大・強化・普及を効率的に進め、青少年の健全育成に寄与する。

ライフスキル教育普及事業

（ライオンズクエスト普及活動）

- 教師等実施者研修（ワークショップ）
- 説明会・体験会開催等の広報
- 教材開発・改良
- 講師養成
- 評価
- 実施者間の交流

教育行政
学校
教員
青少年活動指導者

子ども
青少年